

教材・支援機器活用実践事例 【デジタル教科書と具体物を活用した図形の指導】

子どもについて	学校・学年・学級	小学校 6学年 特別支援学級	
	対象の障がい	知的障がい	
	授業形態	個別指導	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>○注意記憶が弱く、聞いたことを覚えておくことや聞き続けることが苦手。講義形式の一斉授業は苦手。</p> <p>○作業速度が遅い。問題量を多くこなすことが難しい。</p> <p>○意味づけしにくい視覚的な情報の記憶が苦手。</p> <p>○一般的事実や語彙などの知識習得・保存が弱い。</p>	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>①既習事項の掲示</p> <p>②デジタル教科書</p> <p>③操作活動 円の面積の意味</p> <p>④操作活動 複合図形の面積</p>	<p>画像</p> <p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p> <p>④ </p>
	活用のねらい	○視覚認知、概念認知、短期記憶の不自由さを補充し、学習の見通しがもてるようにする。	
授業における支援 ・教材の配慮事項	<p>①公式を覚えるのが困難なため、既習のものと円の公式を掲示し確認するところから導入する。</p> <p>②デジタルコンテンツは、動きがあるので円から長方形に変形する過程がシミュレーションしやすいため用いた。</p> <p>③②と同内容の操作活動を行った。実寸の工作用紙で作った円を用いて、長方形に変形する作業。その際、円周や半径を色分けし、どの部分が長方形のどの部分になるかをわかるようにした。</p> <p>④求める図形をパズル形式にし、実際に足したり引いたりする操作を手元で行えるようにした。</p>		
子どもの変容や評価	<p>○円の公式については、常に掲示し、確認しているため、基本的な円の面積を求めることはできるようになった。</p> <p>○デジタル教材は興味をもって視聴するが、それだけでは意味の理解が難しいため、操作活動で確認した。複合図形に関しては、パズルを使いながら教師と共に式化していくことができるようになった。</p>		